

自由研究の仕方・まとめ方

はじめに

わたしたちは、毎日の生活の中で、「不思議だな」「面白いな」と思うことがあふれます。学校の授業、テレビを見たり本を読んだり時、または、旅行などで新しいものを見た時など、「どうしてかな?」と疑問に思うこともあります。

夏休みの自由研究は、このような日常的なことの中から出て来る疑問に対し、長い時間をかけて、その「わけ」を見つめてみようとするものです。

第3回全国小・中学生作品コンクールにも、こうした疑問に基づいて研究された作品が数多く寄せられました。

ここでは、子どもたちが、社会科や理科の作品を通して、どんなことを考え、解決しようとしているのかを作品自体をふり返りながら、自由研究について考えてみたいと思います。

社会科

○研究の動機

社会科の自由研究は、何も特別な場所に行ったり、めったに出来ない事をするといったことではありません。

日頃の身のまわりの出来事や、学校で勉強していることの中にも、研究の材料はいくらでもあります。

今回の作品コンクールに応募された作品のタイトルを見ても、「とうふ屋さんの一日」とか「わが家の古い道具

と新しい道具」といった身の回りにあるものや、「歴史新聞」や「岐阜市の文化財」のように授業で学んだ事を発展的に研究した作品が目立ちます。

○研究する時に必要なこと

ところで、夏休みの作品として、あるいは自由研究をやるとうする時に、頭に入れておかなければいけないことがあります。これは、自由研究をやるための心がまえでもありますし、又、他の人が、その研究を評価する際の判断基準でもあります。

① その第一条件として、「夏休みという長い期間を生かした研究であること」です。

いつも学校で、テストの点数に追われている児童にとつて、夏休みは自分の興味、好奇心のわく事柄を追求するのにもってこいの時期です。

この長い期間に、効果的に研究を進めていくためには、しっかりと計画を立てることが必要です。

② 次に「主題、内容が、学年相応のものであること」です。

自由研究は、特別な体験をする事ではありません。子どもが自分の力で研究して行くためには、あくまでも教科書が母体となり、そこから多少なりとも発展させて行くような方向に進めて行くようにしなくてはなりません。

③ 「研究に取り組む意欲や、努力が感じられること」

形式をふまえており、それぞれの内容もユニークであり、時にはユーモアもまじえながら自由な発想で書かれてあるため、読んで楽しい新聞になっています。

今回のコンクールでは、この他にも新聞の形式をとった作品が数多く応募されました。新聞は、わたしたちの生活の中で、大切なものであり、身の回りの出来事や、自分で調べた事を新聞形式にまとめる事は面白い事です。

しかし、その作品の多くが、単に調べたこと、出来事を新聞として表現されているにすぎないものでした。

新聞は、大切な事を正しく伝えるものだけではなく、社説のように「考えた事、思った事」を述べているものでもあります。

きれいなレイアウトだけで、そこに自分の「考え」がなければ、社会科のよい自由研究とは言えません。このような傾向は、特に歴史を取り扱った新聞に見られがちです。

松島君の「歴史新聞」では、弥生人としての社説が載っています。弥生人として考えることが出来るためには、単に想像力が豊かであるだけではなく、歴史的背景をよく調べるといふ努力が必要で、松島君は、日頃の学習で興味を持って居る事を夏休みという期間を利用して、色々な資料を読んだり、博物館へ行ったりする事によって、弥生人に対するイメージをふくらませています。

研究対象は、身近なところからでもありますが、その対象は、必ずしも最初から気に入るものではありません。

「グループ研究で岩見銀山のことに ついて調べることになりましたが、初めはどのように調べるのか、どのようにならめるといいのか、8月13日に皆んなと一緒に出来るまで心配でしたが、大森町に今でも残っている

「開歩」や「代官」のことを調査すると、とても面白くなりました。

（今回社会科部門で、最優秀賞を受賞した「岩見銀山の歴史と現在のようす」のあとがきより）

というように、研究が進むにつれて興味が出てくることも多いものです。苦勞してやりとげた後の喜びは非常に大きいものとなります。

④ 「研究に創造性があること。まとめ方に工夫があること」

以上のことを頭に入れながら、今回のコンクールに応募された作品を見てみましょう。

作品1 赤塚 一樹
北海道苫小牧市立日新小学校5年



このように、学習を自分のものにするような研究方法が、自由研究の本質の姿でもあります。



作品3 白木 英介
岐阜県岐阜市立長良小学校6年

この玉井町の町なみは、すくすくの家も似ているという事は分かった。しかも、4〜5軒の集団で似ているという事も分かった。今調べているこの辺の家は、みんな40〜60年に当てはまる。

その中でも、上の写真と左のページの家は、ほとんど同じ年に建てられているため、すくすく似ている。

年の関係はやっぱりある。

○この作品は、一種の旅行記ですが、城下町特有の家づくりを、一軒一軒こまめに歩いて見ている。「家」という普段はあまり気にとめない様な題材に注目し、自分の力で良くまとめている。研究した過程、考えた過程を、そ

「竹林」

福岡県大和町立豊原小学校 4年

「飛行」

広島県呉市立昭和北小学校 6年

○佳作

中野きみ子（福岡・豊原小学校1年 岡本 泉岐 中・那加第三小学校2年 直江伊斗子（福井・吉野小学校2年）坂井留美（福岡・中島小学校3年）藤田昌孝（岐阜・笠原小学校4年）関川蘭子（福岡・豊原小学校5年）西山友香（和歌山・和歌浦小学校5年）赤川悦子（秋田・大森小学校6年）大久保美香（愛知・山之手小学校6年）津田真紀（大阪・富山台中学校2年）

絵日記 部門

○最優秀賞

宮城県仙台市立遠見塚小学校 2年

○優秀賞

岩手県盛岡市立青山小学校 1年

○優良賞

岩手県盛岡市立遠見塚小学校 1年

○佳作

宮城県仙台市立遠見塚小学校 1年

○優良賞

岩手県盛岡市立青山小学校 1年

○優秀賞

岩手県盛岡市立遠見塚小学校 1年

○佳作

宮城県仙台市立遠見塚小学校 1年

○優良賞

岩手県盛岡市立青山小学校 1年

○優秀賞

岩手県盛岡市立遠見塚小学校 1年

○佳作

宮城県仙台市立遠見塚小学校 1年

○優良賞

岩手県盛岡市立青山小学校 1年

○優秀賞

岩手県盛岡市立遠見塚小学校 1年

○佳作

宮城県仙台市立遠見塚小学校 1年

○優良賞

岩手県盛岡市立青山小学校 1年

○優秀賞

岩手県盛岡市立遠見塚小学校 1年

○佳作

宮城県仙台市立遠見塚小学校 1年

○優良賞

岩手県盛岡市立青山小学校 1年

○優秀賞

岩手県盛岡市立遠見塚小学校 1年

○佳作

宮城県仙台市立遠見塚小学校 1年

○優良賞

岩手県盛岡市立青山小学校 1年

○優秀賞

岩手県盛岡市立遠見塚小学校 1年

○佳作

宮城県仙台市立遠見塚小学校 1年

○優良賞

岩手県盛岡市立青山小学校 1年

○優秀賞

岩手県盛岡市立遠見塚小学校 1年

○佳作

宮城県仙台市立遠見塚小学校 1年

○優良賞

岩手県盛岡市立青山小学校 1年

○優秀賞

岩手県盛岡市立遠見塚小学校 1年

○佳作

宮城県仙台市立遠見塚小学校 1年

○優良賞

岩手県盛岡市立青山小学校 1年

○優秀賞

岩手県盛岡市立遠見塚小学校 1年

○佳作

その通りに表わしているところは、作品に活気が出ています。

旅行記の中には、出発した時から帰って来た時までの、すべての交通機関や見学して来たものを「作文」のように書かれたものがよくありますが、社会科の自由研究とするならば、白木君のように、ポイントをしぼって、作品に特色を持たせた方が良いでしょう。ポイントの絞り方は、地理的なものを中心にするか、歴史的なものを中心にするかの2通りの方法があります。

●地理的な旅行記

旅行に出かける前には、その地方の自然の様子や産業の様子、地図などを調べておきます。事前にそういった知識がないと、目の前に現われた貴重な景色や事物を見逃すことになってしまいます。

また、家の人と旅行した際に、たまたま出会った事を研究対象にするのではなく、前もって家の人と相談して、研究のためになる場所を旅行のコースの中に入れるようにした方が良いでしょう。

白木君の様に、写真はぜひとおきたいものです。又、その時々思った、考えたりした事をメモしておくと、この作品の様に旅行記に活気を与えることになりま

す。その他、行ったところであるべく資料を集める様にしましょう。県庁や市役所、博物館などには、そ

の地方の統計や資料が多数用意されていますので参考になります。

作品4

「いねのかんさつ」

泉山 香織

青森県八戸市立吹上小学校2年



一、しらべようと思つたわけ

一年生の社会科で「いねをそだてる人たち」というのをべんぎょうしました。

わたしのうちでは田んぼがあつて、おこめをつくつてたべています。うちのすぐそばにたんぼがあるので、まい日かんさつしやすいし、うちの人からいろいろな話がきけるので、いままでのまとめをして見ようと思ひました。

二、よいししたもの

まい日ものさしをつかうのがたいへんなので、じぶんでほそながいいたを見つけてきて十センチメートル、十五センチメートル、二十センチメートル、二十五センチメートルと五センチメートルきざみにめもりをつけて、長いものさしをつくりました。それをかんさつしようと思つた、いねのそばにたて

ました。

三、しらべること

(一)デリーとうほくしんぶんを見て

八戸のさいこう気おんを調べる。

(二)まい日いねのそだち方をみる。

(三)うちの人にいままでのしごとをきいてひよにする。

○この作品は、理科と社会科の両方の性格を持っていますが、内容的には、二年生の社会科の「いねを育てる人たち」ということが基本になっています。3月25日から8月21日まで、約半年にわたつて、稲の育ちと人のかかわりをしつかり見えています。

作品コンクールには、この他にも2つ以上の教科の性格を持つ作品が時々応募されて来ます。日記のような旅行記とか、工作のような水車の構造模型とかがそれです。複数の教科の学習に基いた研究は悪いことではありませんが、この場合、教科ごとの性格を知つていなければ、自分は何について、どういう事を研究するかということに混乱を起こすことになりま

す。この作品で、児童がもし稲の成長に注目していれば理科になっていますが、これは稲に関わる人の仕事に注目しているのが社会科の自由研究になります。この作品のように、稲がどのくらいに成長したら、どんな仕事が行なわれるか、という別の視点から見ると、合理的な観察も行なうといったやり方はすばらしいと思います。

東京都杉並区立宮前中学校 2年
宮川 剛、佐久間愛子、伊東顕太郎
林 信章、山口タチ子、吉永美枝子
愛知教育大学附属岡崎小学校 3年
若山 佳之

愛知教育大学附属岡崎小学校 5年
安部智子、石川由香
宇都宮大学教育学部附属小学校 6年
蓬田 太郎

「ひし形12面体を作る」
宇都宮大学教育学部附属小学校 6年
蓬田 太郎

○優良賞
「なわとびのがんばり」
岐阜県岐阜市立長良小学校 2年
中村 晃治

「方陣」

勝又京太、長瀬和彦、和田守寿、大嶺浩
山本芽生、須藤若菜、片山かつら
宮城県中新田町立中新田小学校
4年1組代表 佐藤 理恵
愛知教育大学附属岡崎小学校 6年
水島 愛

○佳作

武藤正博(岐阜・長良小学校2年) 向井啓一郎(岐阜・長良小学校2年) 片田江喜久、遠藤 範、小野 薫、萩原東子、森重陽子、駿河多恵子(東京・宮前中学校2年) 後藤麻由美(愛知・愛知教育大学附属岡崎小学校3年) 平松美千子(愛知・愛知教育大学附属岡崎小学校5年) 辺見勇人(愛知・愛知教育大学附属岡崎小学校5年) 鶴飼庸介(愛知・愛知教育大学附属岡崎小学校5年) 渡辺佳久(栃木・宇都宮大学教育学部附属小学校6年) 福田名緒子、松島香林(栃木・宇都宮大学教育学部附属小学校6年) 渡辺麻起(栃木・宇都宮大学教育学部附属小学校6年)

理科 部門

○文部大臣奨励賞

「中新田町のちょうとんぼの採集と研究」
宮城県中新田町立中新田小学校 5年
鈴木 宏徳

○最優秀賞

「私の昆虫記」
京都府京都市立錦林小学校 4年
初田 智香子

○優秀賞

「竜潭池」
沖縄県那覇市立寄宮中学校 3年
廣川 貴次

「霞川の水質調査」

千葉県千葉市立みつわ台中学校
斉藤龍一、蒲谷敬敏、増子 誠
古東克敏、菊地太郎